

熱い声援を受け、目指すは記録の更新

第7回一関地方小学校陸上競技大会

第7回一関地方小学校陸上競技大会（一関地方小学校体育連盟主催）は6月16日、市内萩荘の一関運動公園陸上競技場で開かれ、市内と平泉町の小学校35校の代表選手が健脚を競いました。

100mや200m、4×100mリレー、80m障害などのトラック競技のほか、跳躍、投てきなどの11種目に、男女合わせて延べ1400人の児童が参加しました。競技は、学校対抗。選手たちは、父母や応援団の声援を受けながら、自己の記録更新を目指していました。大会では、6年女子100m、共通ボール投げの2種目で大会新記録が誕生しました。



ハラミ焼を応援、地元産にこだわり

室根西小児童ら喜びのタマネギ収穫

JAいわて平泉室根青年部（芳賀信也部長）が主催するタマネギ収穫会は6月13日、室根町矢越の圃場で行われました。タマネギの栽培は、食育の啓発といちのせきハラミ焼なじったべ隊（山本郷鶏総裁）の活動を支援する試み。

鈴木舞さん（室根西小4年）は「茎と根を切って、運ぶところが大変だった。いちのせきハラミ焼きの具材として、多くの人のお口に入ると思うとうれしい」とはにかみました。

収穫には室根西小学校4年生をはじめ、保護者、同青年部、JA、同女性部、なじったべ隊ら100人が参加。約15アールの畑から、およそ5トンものタマネギが収穫されました。

地元を愛する女性が観光地を紹介する「美女旅×いわて」「一関・奥州・平泉～世界遺産の旅～編」が完成

県南広域振興局が発行する観光パンフレット「美女旅×いわて」の「一関・奥州・平泉～世界遺産の旅～編」の完成お披露目は6月17日、平泉町役場で行われ、パンフレットのモデルや関係者らが完成を祝いました。

「美女旅×いわて」は、地元を愛する地元の女性が観光スポットなどを紹介するパンフレット。モデルは、一般の応募者から選出し、等身大の若者・女性目線で情報を発信します。第1弾の「花巻・遠野～SL銀河の旅～編」は26年8月に発行。パンフレットは3カ月で在庫切れになり、公式ホームページのアクセス数は32万件になるなど、大きな反響がありました。

第2弾は、中尊寺や毛越寺などの世界遺産のほか、狛鼻溪や酒の民族文化博物館などを紹介。54人の応募者から6人のモデルを起用しました。そのうち、本市から佐藤悠佳さん（26歳・東山町）、小岩ちえみさん（24歳・萩荘）、佐藤おかりさん（25歳・川崎町）が出演。表紙を飾った佐藤悠佳さんは「地元が大好きで応募しました。自分の思いがパンフレットという形になってうれしい。パンフレットがきっかけで、観光客が増えれば」と話してくれました。

発行されたパンフレットは1万2000部。市内の観光施設などで配られます。モデルの6人は、今後「美女旅×いわて観光研究部」として活動。地元の魅力を発信したり、首都圏のイベントなどへ参加し、プロモーション活動を展開していきます。



④完成した「一関・奥州・平泉～世界遺産の旅～編」。誘客促進などに期待が寄せられる⑤右からモデルの小岩ちえみ、石川優花、佐藤悠佳、佐藤おかり、仲口愛海



はるか古代に思いをはせて 地域を調査する拓本技術を学ぶ

本物の縄文土器を使ったワークショップ「土器の拓本とり」は6月7日、大東町の芦東山記念館で行われ、参加者は大東町浜民で出土した縄文土器から文様を写し取る技術を学びました。

拓本は考古学の分野で行われる調査方法の一つ。画仙紙という紙で土器を包み、墨で凹凸を写し取ります。実物や写真よりも文字や文様をはっきり読み取れるため、土器を作った年代、利き手や技術の高さなどを知る手がかりにも。紙なのでたんで持ち帰ることができるなどの利点があります。

石巻市から訪れた杉山和恵さん（53）は「理屈はわかるが実際にやると難しい。手元に拓本が残るのが良い」と作業に夢中でした。



本寺地区の昔ながらの田植えと農村景観を楽しむ 「第11回お田植え体験交流会」に233人参加

「骨寺村荘園お田植え体験交流会」は5月31日、本寺地区の小区画の水田で行われ、全国から集まった233人が昔ながらの田植えと農村景観を楽しみました。

今回の参加者は、岩手大の学生や地元の小中学生のほか、市内の英語指導助手など過去最多。また、新たに奥州市・女わざの会の森田瑛子主宰による「野良着ファッションショー」を開き、農村の伝統や文化を堪能できる一日になりました。初めて田植えを体験した岩手大4年の菅原麻美さんは「地域おこしの勉強にもなり、とても楽しめた。稲刈りも楽しみです」と話してくれました。



地元に伝わる民話・伝説を後世へ 古き良き武家屋敷で「語り部」味わう

いわいの里ガイドの会（白澤剛一会長、32人）が主催する「語り部の会」は6月12日、田村町の旧沼田家武家屋敷で行われ、観光客など約50人が心地いい口調で語られる昔ばなしに聞き入っていました。

紹介されたのは、地名にまつわる話やくすつと笑ってしまう話など14つ。10人の語り手が、温かい表情と独特の言い回しで披露しました。初めて一関を訪れた浜田晃子さん（46歳・横浜市）は「武家屋敷で、語り部を聞く機会がめったにありません。参加できてよかった」とにっこり。同イベントは、昔話で地域の魅力を伝えるために実施。年2回、同会場で開催されています。



森と海の豊かな環境を目指して 新緑の森に大漁旗が風になびく

気仙沼市唐桑町牡蠣の森を募う会（畠山重篤会長）と室根町の第12区自治会（三浦幹夫会長）が主催する第27回「森は海の恋人植樹祭」は6月7日、矢越山で行われ、県内外から集まった1500人が広葉樹の苗を植樹しました。

参加者らは、植樹会場までの1.7kmを30分かけて徒歩で移動。約70mの斜面にミズナラ、コナラ、ミズキ、ブナなどの苗木を植え、海を育てる豊かな森になるようお願いを込めました。参加した三浦宗一郎君（室根西小6年）は「森を大事にしたい。植えた木が元気に育てばいいと思う」と期待を込めました。

